

中学校国語

全国を基準とした清水町の子どもの学習指導要領の領域別学力の定着（2017年）

	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項
国語 A	○	☆	☆	○
国語 B	☆	☆☆	☆	☆☆

- 全国とほぼ同じ水準である。
☆☆ 全国を大きく上回っている。 ☆ 全国をやや上回っている。
★ 全国をやや下回っている。 ★★ 全国を大きく下回っている。

これまでの取組の成果（十分な定着が見られる）

- ・「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」「事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す」力が付いています。（話すこと・聞くこと）
- ・「書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く」「書いた文章についての助言をもとに、自分の表現を見直す」力が付いています。（書くこと）
- ・「文章の要旨を捉える」「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」「文章の表現の仕方について自分の考えをもつ」力が付いています。（読むこと）
- ・「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」力が付いています。特に、敬語や接続詞についての問題において高い正答率が見られました。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

これからの課題（定着が十分でない）

A 問題では、全国でも正答率が低かった「組織の**主**を大きくする」の下線部にあてはまる漢字を書く問いで、「規」「模」の片方だけ合っている生徒や、無解答の生徒が多くいました。このことについて、同じ読み方の他の字と間違えたり、それぞれの字の細かい部分を間違えたりしてしまったという原因が考えられます。また、漢字の問題や記述問題で無解答率が高くなる傾向があります。自信がないと、間違えたら恥ずかしいとってしまうのか全く答えを書かないことがあるようです。正しい知識を付けることに加えて、こうではないかと思う解答をまず書くことが、物事を深く考えるための第一歩です。

B 問題では、比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く問題の正答率が全国平均と比べて高かったものの、定着が十分でないと思われる結果でした。国語科の力の中で「書くこと」「読むこと」「言語事項（上記の『伝統的な～』）」を複合的に組み合わせる解かなくてはならない問題で、無解答率が高い傾向が見られました。答える上での条件が多くて複雑だったため、求められている答えに達していない生徒が多くいました。文章をよく読むこと、問いをよく読んで求められている条件を理解することなどは、どの教科でも大切にしたいことです。

成果を伸ばし、課題を改善する手立てなど

漢字の学習について、字を単体で覚えるのではなく、熟語や同じ部首の漢字、同音異義語などと合わせて覚えていく必要性を感じます。漢字練習では、漢字の成り立ちや意味を考えながら熟語を何種類か書くようにすると熟語の意味の理解が深まります。

また、語彙力の不足から問題の意味の理解が十分でないと感じられる解答もありました。語彙を増やすためにも、新聞や本に多く触れてほしいと思います。学校や家庭で読書をするときに、今まで読んだことのないジャンルの本に挑戦したり、読書の記録を自分なりに残したりすることで読書の量が増えるだけでなく質が向上します。質のよい本を、しっかりと考えながら読むことは、語彙を増やし心を豊かにします。御家庭でも、読んでいる本を家族で話題にするなど、本に触れてほしいと思います。